

KSKQ

エヌピーオー

NPOちゅうぶ つうしん 通信

ねん がつごう
2026年4月号



ゆうせいほごほうもんだい おおさかふこうしやう 優生保護法問題で大阪府交渉3.16
ゆうせいほごほうもんだい おおさかふまかい ちんじやうこうどう 優生保護法問題で大阪府議会へ陳情行動
ふつうのひ さんかほうこく ユニバ 「普通の日」参加報告 (UNIVA)
ちいまれんけいすいしんかいま ほうこく 「地域連携推進会議」のご報告
すずききやうだい バンダイナムコゲーム 企画 鈴木兄弟 バンダイナムコゲーム企画
ナビゲーション
おおさか たいげんかい 大阪メトロバリアフリー体験会

あいえる ぎやうかい まな い あいえる協会へ学びに行きました
ばんぱく をき にユニバーサルデザインを! 万博を機にユニバーサルデザインを!
マノスタグラム おかねしんじや 参り マノスタグラム 観金神社へお参り
せいしよくいん ヘルパー スタッフ募集 正職員・ヘルパー スタッフ募集
おおさか うんどう げんりゆう いま し 大阪の運動の源流と今を知る
きやうりよくかいひ 協力会費 カンパ
へんしゅうこうま 編集後記

ゆうせいほごほうもんだい おおさかふこうしょう 優生保護法問題で大阪府交渉 3.16

ひとり おお ひがいしゃ しゃざい ほしょう とど 一人でも多くの被害者に謝罪と補償を届けてください

ゆうせいほごほうもんだい ねん がつ きいこうさいばんしょ いげんはんけつ しんほしょうほう ねん がつ しこう
優生保護法問題は、2024年7月に最高裁判所で違憲判決がでて、新補償法が2025年1月に施行されまし
たが、おおさか府では1234人(不妊手術)のうち補償法の認定に至ったのは48人と少数です。ひとりもおおのひと
にどう謝罪と補償を届けるのかが大きな課題となっています。おおさか旧優生保護法を問うネットワーク、大阪
障害フォーラム(ODF)、旧優生保護法被害大阪弁護団では、全面解決に向けて大阪府に要望書を提出し、
きょうぎ つづ 協議を続けてきました。

3がつ 16 にちゆうせいほごほうもんだいで、21名が参加し大阪府(健康医療部地域保健課、福祉部障がい福祉企画課)と
こうしやう ほうこく 交渉しましたので、報告します。(文責 堀)



ひがいしゃ しゅうち こうほう じょうほう とど
被害者にわかやすい周知、広報で情報を届けてください。

- ① 多様なツールを用いてください
- ② 障害支援区分認定時などにリーフレットを同封してください

おおさか府 かいとう がいよう (大阪府からの回答の概要)

○府政だよりやホームページでの周知、府公式 X での投稿、市町村や、医療・福祉・人権等の関係機関・
障がい者支援施設・高齢者施設等へのポスターやリーフレットの配布、大阪府庁新別館地下のデジタル
サイネージでの広報を実施。

○市町村に対しては、ホームページ・広報誌への掲載、自治会や町内会などの地域コミュニティでの回覧、
障がい福祉サービス受給者証交付事務等を通じた周知・広報等について協力依頼を发出了。

おもなやり取り

●テレビの枠CM等の枠の拡大を求めました。大阪府からは、「テレビ大阪で昼時間帯から早朝、夜間ま
で幅広く視聴できるようにしている」、「X については継続的に通年でエントリーしている」と回答があ
りました。

●市町村への協力依頼の具体的内容を質しました。大阪府からは、「文書だけでなく、市町村会議で周知
している」、「交付事務を通じて周知してほしい」ことも伝えており、回答がありました。こちらからは、

市町村の広報誌にもっと載せてほしい。市町村にやるべきことのメニューを提示して、進捗状況の見え
る化と共有化をして、市町村がやる気になるようにしてほしいと訴えました。

**医療機関、高齢者施設、障害者施設へ資料の有無の照会を引き続き実施して
ください。兵庫県のように施設へ取り組み状況などの回答を求めてください。**

(大阪府からの回答の概要)

- 府所管施設に対して、資料の有無の調査を実施した。さらに高齢者施設に対し、調査を実施している。
- 政令指定都市、中核市に対して、資料の保全の周知、調査の実施について協力依頼している。

(主なやり取り)

- 単に資料の有無を問うだけでなく、各施設の取り組み状況を問うなど各施設等に当事者意識を持たせる内容にしてほしい。高齢者施設だけでなく、医療機関、障害者施設も、改めて対象にしてほしいと訴えましたが、府は、「ご意見を受け止めました」と答えるに留まりました。
- さらに、「調査時点で把握している情報で答えるだけでいい、改めて調査する必要はない」という調査の仕方は被害者発掘につながらないのではないかと追及しました。

施設や病院に対して、面接記録、台帳、カルテなどの記録の自主点検や、適切な申請の支援を行うように依頼してください。

(大阪府からの回答の概要)

- 精神病院・障がい者支援施設等に対して、協力依頼を行っている。
- 入居時の面接や支援台帳の記載、入浴介助・健康診断等で手術痕を確認したことがある場合、利用者・家族等から優生手術等が疑われる場合等を例示し、請求に関する支援についても協力依頼を行っている。

(主なやり取り)

- 国からも施設等の調査について取り組み依頼が近くあると聞いている。西スミコさん(原告 施設入所中に生理の介助をなくすために子宮摘出された)がいた施設など、被害者がいる可能性が高い施設でしっかり取り組んでほしいと訴えました。
- 昨年度の交渉で、知られたくない人へ配慮が必要と大阪府は調査に後ろ向きな姿勢であったが、適切な支援のためにも手術を受けたことがあるのかの把握と申請のサポートは必要であることを伝えました。

**国の行動計画を踏まえて、偏見差別を根絶する取り組みを進めてください。
優生保護法問題を踏まえた施策について障害者計画に反映してください。**

(大阪府からの回答の概要)

- 国の行動計画が取りまとめられた背景等も念頭に置きながら、障がいの権利について改めて見直し、次期計画策定に向けた検討を進めているところ。

(主なやり取り)

- しっかり反映するように求め、府は1年かけて検討をすると回答しました。

知事は原告に直接謝罪してください。

(大阪府からの回答の概要)

○令和7年1月の定例記者会見について知事から被害者の方に謝罪した。また、ホームページに知事からのメッセージを掲載している。

(主なやり取り)

●優生保護法問題は一度定例記者会見で謝ったからいいという問題でない。何度も謝罪が必要。原告に直接謝ってほしい。未だに、被害者は申請しようとしても、診断書の記載すら拒否されて申請ができない。知事がリーダーシップをとって、施策を前に進めてほしいと強く求め、こういう声を知事に届けてほしいと訴えました。

優生保護法問題で大阪府議会へ陳情行動 3.3

優生保護法問題の全面解決に向けた取り組みについて、問うネット、障大連、大聴協で陳情書を提出し、共同で、3月3日に大阪府議会の各会派を回り、取り組みへの理解を求めました。

ある議員からは、「最高裁判決も出て、新補償法も創設されたので、うまく進んでいると思っていました。」と感想があり、改めて働きかけが大事だと思いました。

(文責 堀)



全被害者の人権回復のための広報、周知、相談支援の取り組みを強化してください

- 大阪府には、国の統計によると強制不妊手術だけでも1234人(全国で3番目に多い)の被害者がいるが、補償金認定は48人に留まっている。
- 被害者の多くは60～90歳代であり、被害回復が急がれる。新たに保障対象となった障害等を理由にした中絶の被害者にも早急に周知が必要。
- 大阪府には個人が特定できる記録が残っていないと報告がされているが、各病院、施設、保健所等で、しっかりと再確認作業をしていただきたい。
- 被害者らは、「不良な子孫をのこす者」という烙印に苦しみ、差別によって沈黙を強いられてきた。障害等を理由とする不妊手術や中絶は、人権を著しく侵害する誤った手術であったことをしっかり周知してほしい。
大阪府としての責任を認識し、謝罪してください。
- 本人や関係者がいるであろう高齢や障害の施設、サービス事業所などに周知を強化するとともに、申請の支援を行うように依頼してください。

旧優生保護法補償法に基づく補償金の相談・請求・認定件数

都道府県	第3条	第4条第12条	不妊手術(合計)	個人が特定できる記録数	相談件数	請求受付件数	補償金認定件数
北海道	631	2593	3224	1323	494	163	108
宮城県	338	1406	1744	1379	607	244	172
大阪府	624	610	1234	0	289	86	48
岡山県	172	845	1017	9	148	47	32
静岡県	229	530	759	0	113	31	19
大分県	83	663	746	107	550	62	36
山形県	185	445	630	112	114	71	57

↑
議会事務局へ
陳情書を提出
する西尾さん

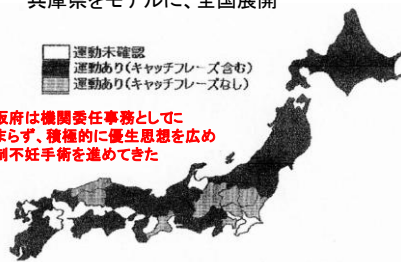
府議会の
各会派へ持参した
資料の一部 →

不幸な子どもの生まれない運動

兵庫県をモデルに、全国展開

運動未確認
運動あり(キャッチフレーズ含む)
運動あり(キャッチフレーズなし)

大阪府は機関委任事務として留まらず、積極的に優生思想を広め強制不妊手術を進めてきた



●32都道府県10市でキャッチフレーズを伴う「運動」を実施

- ▶ 不幸な子どもを生まない道民運動(北海道)
- ▶ 異常児を生まない道民運動(札幌市)
- ▶ 健康な子を生む運動(青森県)
- ▶ よい子を生み育てる運動(宮城県・香川県・愛媛県)
- ▶ 「陽の当たる子」育成(福島県)
- ▶ 丈夫な子どもを生み育てる母親運動(石川県)
- ▶ 不幸な子供を生まない運動(秋田県・山梨県・大阪府・徳島県)
- ▶ たくましい子・すこやかな母(滋賀県)
- ▶ 太陽の子運動(鹿児島県)
- ▶ 健康火の国運動(熊本県)

図1 「不幸な子どもの生まれない運動」実施都道府県(1970年4月1日現在)

参照、土屋敦、2009、「母子保健行政の転換局面における『先天異常児』出生予防施策の興隆」『三田学会雑誌』102(1):91-118.

「ふつうのひ」参加報告

—インクルーシブ教育プロジェクト発表会—



2026年3月7日、「ふつうのひ」に登壇してきました。私は2025年6月より、UNIVAの野口晃菜さんからお声がけをいただき、プロジェクトのメンバーとして活動に参加しています。

主な関わりとして、大阪府箕面市立萱野小学校5年生を対象とした「ふつうアップデート」の授業に入り込み、子どもたちと

も「ふつう」とは何かを考える機会を重ねてきました。この授業では、障害のある・なしにかかわらず、「誰にとってのふつうなのか」「そのふつうは本当にみんなにとって心地よいものなのか」といったことを、子どもたちと一緒に考えていきました。私にとっても、子どもたちの率直な言葉や反応に触れながら、自分自身の経験を改めて見つめ直す機会となりました。

こうした実践の積み重ねが、今回の登壇へとつながりました。

パネルディスカッションで伝えたこと

パネルディスカッションでは、自身の学生時代に抱えていたしんどさについてお話ししました。当時の私は、周囲に合わせて無理をしたり、嫌われないように気を使ったりしながら学校生活を送っていました。友達とうまくやっていくために、自分の気持ちを後回しにして、その場の空気を読んで行動することが当たり前になっていたように思います。

しかし、友人と喧嘩をした際に、「健常者めんどくせー」と感じたことがありました。当時は、その感情をうまく整理することができず、「やっぱり自分は普通の学校ではしんどいかもしれない」と感じていました。その後、高校では少しでも楽に過ごしたいという思いから特別支援学校を選択しました。

ただ、今振り返ると、「めんどくさい」と感じていたのは自分だけではなかったのではないかと思います。当時は、私だけでなく、周囲の友達もみんな嫌われないように気を使いながら過ごしていたのではないのでしょうか。いわば「友達ごっこ」のような関係の中で、それぞれが自分らしさを出すことを恐れ、無意識のうちに周囲に合わせていたのだと思います。そう考えると、しんどさは誰か一人の問題ではなく、学校という場のあり方や、そこにある見えないルール、空気、システムによって生み出されていた部分も大きかったのではないかと感じています。だからこそ、誰か一人を特別扱いするのではなく、「みんなが特別であり、みんなに配慮が必要で、みんなが守られる存在である」という視点が大切だと思っています。特定の誰かだけが支えられるのではなく、誰もが安心して自分らしくいられる環境をつくっていくことが必要なのだと改めて感じました。

分科会での学び

後半の分科会では、埼玉県戸田市立戸田第二小学校で実際に「ふつうアップデート」の授業を実践された先生と、私が登壇しました。ここで特に印象に残ったのは、この授業が子どもたちだけでなく、

先生自身の考え方も変化をもたらしていたことです。先生は、無意識のうちに「先生とはこうあるべき」「子どもたちはこうでなければならない」という理想像を自分の中につくっており、そのことによって自分自身がしんどくなっていたと話されていました。けれども、授業を重ねる中で、その考え方が少しずつほぐれ、自分自身も救われていったという言葉がとても印象的でした。

また、左利きの児童の話も心に残っています。その児童は、「左利きでしんどいのは自分だけの問題だと思っていたけれど、社会が左利きのことをあまり考えていないことの結果だと分かって、自分のせいではないと感じて楽になった」「自分の気持ちを受け入れてもらえてうれしかった」と。この言葉を聞いて、多くの人が「ふつう」に縛られてしんどさを感じているのだと改めて思いました。そして、そのしんどさが「自分の努力不足」や「自分が悪いから」ではないと知ることは、とても大きな意味を持つのだと感じました。子どものうちからこうした視点を学ぶことができれば、その子どもたちが大人になったとき、今よりもっと生きやすい社会をつくっていけるのではないかと思います。



実践を通して見えたこと

私が関わった箕面市立萱野小学校の5年生は、4年生のときにすでに「ふつうアップデート」の授業を受けていました。そのため、子どもたちの中には、「違いがあるのは当たり前」という認識が自然と育まれており、私との出会いもとてもスムーズでした。障害のある私に対して必要以上に身構えたり、特別視したりするのではなく、自然に関わってくれたことがとても印象に残っています。また、知らないことは恥ずかしいことではなく、わからないことは聞いてよい、価値観の違いがあっても否定せずに受け止めてみる、という姿勢が子どもたちの中に育っていました。自分と相手の考え方が違ったとしても、それをすぐに批判したり、自分が悪いのだと抱え込んだりするのではなく、「違って当たり前」と思える心の土台ができていたように感じます。そのような土台があることで、人との出会い方や関係の築き方も大きく変わってくるのだと実感しました。子どもたちの姿から、インクルーシブ教育の可能性を強く感じました。

まとめ

これから学んでいく子どもたちは、「いろんな人がいる」ことが当たり前の感覚として身につけていくのだと思います。一方で、私たち大人は、まだまだ偏見や固定観念にとらわれている部分が多くあるように感じます。もちろん、話し合いを重ねれば分かり合えることもたくさんありますが、そこには時間がかかります。だからこそ、子どもたちへの働きかけだけではなく、大人自身の価値観もアップデートしていく必要があると改めて感じました。インクルーシブ教育ばかりを進めても、それを受け止める社会や大人の側が変わらなければ、子どもたちはまた別の場面で生きづらさを感じてしまいます。

子どもと大人の両方にアプローチしていくことが、これからの社会を変えていくために重要なのだと感じています。今回の登壇を通して、インクルーシブ教育は特定の誰かのためだけのものではなく、誰もが生きやすくなるための取り組みなのだということを改めて実感しました。今後、こうした実践を通して、「ふつう」とは何かを問い続けていきたいと思っています。(文責：東 佳実)

かやのしょうせいと ほっそうりょく おどろ 萱野小生徒の発想力に驚かされました！！

ナビの東さんがUNIVAの方と協同し、「ふつうアップデート」というテーマで小学生と交流していたのもあり、佐々木さん、松倉も声をかけてもらって萱野小で5年生と交流する機会をいただきました。感想を紹介합니다。

きこえない人も聞こえる人も一緒に「だるまさんころんだ」 ができるルール

学校の壁に指文字表が貼ってあり、5年生の多くの生徒が自分の名前を指文字で言っていたような気がします。分からない子も分かる子に聞いて指文字で自己紹介してくれました。



5年生の国語の教科書に手話と指文字が載っていて、生徒が「見てみて～！」と言って私のほうに教科書を持って来て見せてくれました。生徒らは教科書を配られたあと、教科書の指文字と手話が載っているページを見つけ、「授業を始めますよ～」声掛けしても指文字表に集中していたと、先生が笑いながら話してくださいました。



実際に使われている教科書

手話が言語として認識されて、教科書にも反映されていることに加え、授業のほかに、休み時間の中にも手話に触れる時間を自然な形で作っている萱野小の子どもたちからたくさんのエネルギーをもらいました。

生徒が考えてくれたルール

- ① 「だるまさんが」で緑のうちわ、
- ② 「ころんだ」で黄色のうちわ、
- ③ 「だ」で赤のうちわを上げる、

生徒が考えた遊びの工夫がとても面白く、思考を巡らせたものだったと思います。

例えば『だるまさんがころんだ』を聞こえないひとが、聞こえるひとと一緒に遊ぶとき、どうしたらできるのか。

私も考えたことはありませんでした。思い起こせば、コミュニケーションが必要な遊びは特に聞こえなくなってから「加われない」というのが普通になっていたかもしれません。

生徒と一緒に遊べるルールを紙に書いて事前に用意してくれていました。

萱野小生徒たちの素敵な発想力で、温かい気持ちになりました。今回の交流をふまえ、他の小学校の生徒との交流に活かしていけたらと思っています。(青おに 松倉)

こどもたちの柔軟な発想にびっくり



本当に元気で明るい子ども達でした！

みんなが同じ条件で遊べる様に色々な工夫を考えてくれました。

うちわを使ってのだるまさんがころんだは、聴覚障害の事をしっかり理解して、その人がいかに楽しめるのかを意見を出し合った中で決めたそうです。改めて、子ども達の柔軟な発想に驚かされました。

見習わないといけないところ、沢山ありました。またぜひ交流していければと思います。(青おに 佐々木貴祐)

ちいきれんけいすいしんか いぎ ほうこく 地域連携推進会議のご報告

こんにちは、めちやくちや寒い日が続いたり、3月後半くらいの暖かい日があったり、着ていく服も迷ってしまうような今日この頃ですが、皆さん体調崩されていませんか？リオの面々は今の所、体調不良はあれどインフルエンザに罹った人はいません。このまま、だれもインフルエンザに罹らず、この冬を乗り切りたいと思っています。さて、今回は、今年から義務になりました地域連携推進会議の様子を皆さまに報告させていただきます。詳しくはホームページ上で公開しておりますのでそちらをご覧ください。(この記事が出ているところには公開が間に合っているはず。多分大丈夫…夫…なはず…。間に合ってなかったらごめんなさい。)

●地域連携推進会議とは？

まず、初めに地域連携推進会議とはなんぞや？つという事を簡単に説明しますね。昨今、営利団体のグループホームが爆発的に増え、それと同時に虐待やトラブルが増加しています。そこで国は、介護保険での「運営推進会議」が同様の仕組みで、それを障害のグループホームでもやりなさいという通達をだしました。その会議の目的は、会議の構成員に入居者・入居者の家族・地域の代表・福祉に知見のある人・経営に知見のある人、計5人ぐらいで、年1回のグループホーム内の見学と会議をすることで、虐待を防止すること、地域の人にグループホームの事を知ってもらう事 etc.を目的としています。

まだ出来たばかりの制度なので、ガイドラインにも大阪市のQ & Aにも問題点は多々あり(いい点もあると思っています)障大連のグループホーム部会の中でも様々な意見が飛び交っている所です。そんな中でしたが、グループホーム・リオでは、2月18日に地域連携推進会議を開催しました。

●情報収集

とはいえ、問題点もあるガイドラインに沿ってそのままというの、なんだかな〜つと思ひまして、関野は色々な所に行き情報収集してきました。大阪府との意見交換会・日本グループホーム学会の全国大会に参加 etc. その中で、東住吉区の居住系連絡会で発表していただいた、『NPO法人だんでらいおん』さんが、地域連携推進会議で会則を作った事を知り、話を伺いに訪問させていただきました。現在ガイドラインでは会則作成までは義務になってはいません。ですが、『だんでらいおん』さんは、会議の目的を会則という形にした方が、目的に沿って皆で話をしやすくなるし、より有意義な会議にも出来、進行も進めやすくなるだろうという事で作成されたそうです。関野も同意見だったのでグループホーム職員で話し合った結果、リオでも会則を作成する事に至りました。情報提供していただいた『だんでらいおん』さん、本当にありがとうございました。

●こだわった所

会則をつくりにあたって、『だんでらいおん』さんからもらった情報を元に作成するんですが、少し自分たち流に変更したところもあります。一つは会長の所。リオでは会長は入居者になると変更しました。これはなぜか？それは、この地域連携推進会議の問題の一つにも関係するのですが、構成員に選出されている入居者や入居者家族の立場が弱いモノになる可能性があると思ったからです。現在、福祉に知見のある方や経営に知見のある方。地域の代表は開催するグループホーム側が選出して会議に参加してもらいます。ガイドラインでは法人の関係者じゃない方を選出する。となっていますが、例えば同じコンサルティング会社に面倒を見てもらっ

ている、違う法人の人をグループホーム側が選出してもわからないだろうと関野は思っています。地域連携推進会議の議事録を公表する義務はありますが、構成員の事を行政は、深追いて調べはしないでしょし、そもそも数多くあるグループホームが公開している議事録のすべてをチェックする事は難しいでしょう。(通報が入ったり、あまりにも目に余るものなら別でしょうが)要は、自分たちの都合のいい人間を選出しても、すぐにバレないようにしているし。そんな中で入居者や入居者の家族は、本当に言いたい事を言えるのかな?と疑問に思ったんです。そんな中で、そこまで拘束力や罰則などないモノとはいえ、リオの会則を作るのであれば、会長という力があり責任をとるポジションこそ入居者になるべきと考えました。

まあ、ややこしい事をつらつらと書きましたが、上記の気持ちが半分くらい、あとはその方が『ちゅうぶ』らしいなとも思ったり、入居者にも、ただの参加者じゃなくて自分たちも主体的に意見を言って、良いグループホームに自分たちがすると思ってもらえたら良いな〜とか打算があつたり…なかつたり。

●当日のスケジュール

いろいろと準備を進め、さて当日何をしよう、と考え始めました。

やっぱり一番の目的は、風通しの良いグループホームにするという事。という事は、リオの活動を構成員の方に知ってもらい、入居者と交流してもらおう事が一番いいんじゃないかと考え、入居者会議に合流しようと画策しました。

入居者会議で大事にしてきたこと、例えば、選挙の勉強会。どの政党に入れてもいい。けど政権によって生活に影響がでる障害者の暮らしだからこそ、皆で勉強して選挙に行こう、という活動の紹介。青木さんや逢坂さんの旅行の写真を見てもらおう事。を中心に会議の内容を組み立てました。

<具体的なスケジュールは以下>

13:00～開始・自己紹介 5分

13:05～会の目的、会則説明 5分

13:10～グループホーム見学、(お風呂・山野さんの部屋訪問・3階青木さんの部屋訪問・3階梢さん体験室・2階備品室 スプリンクラー 避難経路など) 30分

13:40～見学の感想とリオの紹介軽く 5分

13:45～入居者の障害について簡単な説明 10分

13:55～休憩(入居者会議の設営)

14:00～入居者会議に参加・自己紹介 (名前・リオ歴・リオに来てから良かった事・楽しかったことorこれからしてみたい事) 20分

14:20～通常の入居者会議 10分

14:30～お菓子食べながら 入居者会議の活動紹介(選挙の勉強会・逢坂さん青木さんの旅行紹介) 20分

14:50～今日の感想や意見を聞く 10分ぐらい

15:00～終了

●当日の様子

<会議の構成員は以下>

青木 良さん・山野 英樹さん・地域の民生委員の方・今村さんのお母様(当日は体調不良でお休み)・出発のなかまの会の石井さんです。

会長には山野 英樹さんになっていただきました。会議は自己紹介のあと、館内を見学。その後に関野の方から入居者の障害について簡単なレクチャーをし、入居者会議に合流しました。入居者会議は皆でお菓子を食べながら、和気あいあいと話ができました。入居者の皆さんが旅行の事についての発言が多かったので、旅行はやはり自立生活だからこそ出来ると感じています。今年は2回、入居者の方の旅行に同行したのですが、来年度は何回同行することになるのだろうか、少し戦々恐々となっております(笑)

● 構成員からのコメント

参加された民生員の方からは、「皆さんざっばらんに気持ちをいえているように見えた、スタッフは優しい方が多いのかなと思った。健康に気を付けて旅行などやりたいことを叶えてほしい」
出発のなかまの会の石井さんからは、「希望を持たれていることに沿って、支援してくれているかと思う、物件が賃貸と聞いてびっくりした。隣の部屋の騒音などの対策、例えば吸音などが出来たらと思います」というお言葉をいただきました。いただいた貴重な意見を元に日々の支援にいかしたいと思います。



かいぎ ようす
会議の様子





●まとめ

今回の地域連携推進会議をやってみて思った事は、色々問題はあある仕組みですが、地域の人に障害者の暮らしの一端を知ってもらえる機会は、良い部分もあるなと感じました。ただ、上記にも書きましたが、自分たちの都合のいいようにやろうと思えばできる現状で、グループホームの支援の質を上げるのは、やはり難しいと思いました。一部の営利目的の事業所の為に、グループホームの制度が左右される今の現状は、本当に入居者にとって危うい状況だなと感じます。令和9年度には、新たな報酬改定が予定されています。それまでに、大阪市・大阪府とついに、どうすれば現状を変えていけるのか？当事者も一緒に、前のめりに考えていけない時期に突入したんじゃないかな？と思いました。

(文責:関野)

すずききょうだい プレゼンツ
鈴木兄弟 Presents

きかく イズ がっ か げつ
バンダイナムコゲーム企画 is 2月9日(月)

ぶんせき あか すぎしま
文責:赤おに 萩島

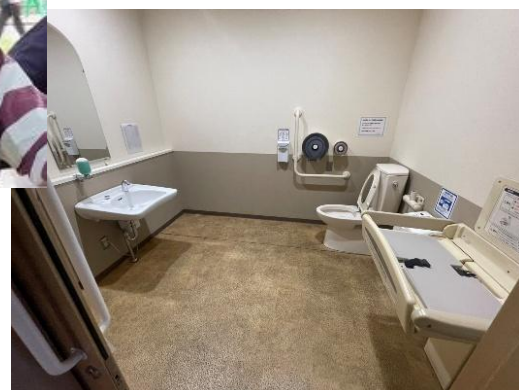
い すずききょうだい がい ぜんいん きゅうじつ い へん
～「行ってみたら鈴木兄弟以外、全員リオメンバーだった！休日に行けるやん！」編～

おおきか すぎしま あおき すずききょうだい にん
逢坂、萩島、青木、鈴木兄弟の5人で、バンダイナムコゲームに行ってきました。食後に行きました。メダルゲームの
スロットをして、ボタンとか自分でやってみただけちょっと難しかったです。ボタンの位置とか、コインを入れる
所の幅がせまくて、自分一人ではコインを入れにくいので、そこは介護者に手伝ってもらいながらやりました。
僕はスロットをするのは初めてで、いまいちよくわからなかったです。。

ほか すずききょうだい
他のメンバーなのですが、鈴木兄弟はクレーンゲームでカービーのぬいぐるみをとっていました。青木くんが「僕のヒーローアカデミア」のキャラをとるために一生懸命頑張っていて、結果はとれたのでよかったです。

やっぱりゲームセンターに車イスで行くと通路は狭く、ところどころに段差があり、スロープもないので迂回する必要がある。スロープとか段差解消してくれたらもっとスムーズに行けるかなと思いました。

うめだ ヘップ ファイブ
梅田のHEP FIVEにあるゲームセンターまでのエレベーターがすごくわかりにくい、1台しかない。せめて2台か3台付けてほしい。





ナビゲーション

じりつ みち あんない
自立への道案内

NAVIGATION

disc

ST

↑ VOL ↓

↑ TUNE ↓

CD

MD

NAVI

TV

1

2

3

4

決定

Disp1 Disp2 Disp3 Disp4 Disp5 Disp6

じりつ じゅんびちゅう
自立において準備中
で〜す！！

つるはかつひろ
ナビスタッフ 鶴羽雄大

もくじ

- つるはかつひろ じりつ みち
鶴羽雄大 自立への道 2
- おすすめのお店紹介します！ 6
- じりつせいかつ
自立生活センター・おおさかひがしセミナー参加しました 7
- へんしゅうこうき
編集後記 8

鶴羽雄大 自立への道

みなさん、こんにちは。今回から始まった「鶴羽雄大 自立への道」

まずは自己紹介から

名前: 鶴羽雄大(29歳) 電動車いすユーザー

障害名: 筋ジストロフィー(デュシェンヌ型)

このコーナーでは鶴羽が一人暮らしをするまでの様子を連載していく。(一人暮らしをしてからの様子もお伝えする予定! 乞うご期待!)

今回は市営住宅当選~生活介護クラン見学までの様子を紹介したい。



【自立生活への思い】

親が介護できなくなった場合、実家で暮らせなくなるので筋ジストロフィーで暮らすことへの不安があります。病院で暮らすのは嫌だし、自分らしい生活がしたいと思います。具体的には、自分が思い立った趣味とか習慣を続けたいからです。

【大阪市営住宅申し込み】

一人暮らしをするには市営住宅が一番良いと思い、申し込みを始めた。11回市営住宅に申し込んで2025年7月に平野区の市営住宅に当選しました。

【当選した時の気持ち】

市営住宅の募集があることは、知っていたが、こんなにも単いすユーザー向けの住宅がなかなか当たらないとは思っていませんでした。11回申し込んで、やっと当選しました。このまま当たらんやろと思っていた矢先に当たったので、何かの間違いかと思いましたが、ネットで調べたら自分の番号があって、本当のことでした。嘘じゃなかった。(笑) いざ当たるとすごく嬉しい反面、不安になりました。その不安というのは、性格上、何事に対しても不安がりで、新しいことに挑戦することが苦手なので、不安になりました。また、普段介護に来てもらっているヘルパーさんだけでは足りないのでは、新しいヘルパーさんに来てもらう必要があり、その度に研修や介護で伝えることも多々増えるので、気持ちは不安になりました。

しかし、嬉しいこともあります。1つ目は友達を呼んでパーティーができる嬉しさ。2つ目は実家だと親からいろんなこと言われたり制限があるけれど、一人暮らしすることで自分が好きなように生活ができることと、責任が自分にあってどんなことも責任が付きまとうけど、自分らしい生活ができることです。

何より、友達を呼んでワイワイできる、ということが嬉しいです。

【市営住宅の鍵の受け取り】

(経緯)

平野区の市営住宅に当選したのは、2025年7月。その際に家の鍵の受け渡しについては1～2 か月後とインターネットに記載があったので、9月から10月ごろ予定と思っていました。しかし、いつになっても連絡が来ないので市営住宅内覧の際に、平野住宅管理センター(補修)の担当者に、私から「鍵の受け渡しの時期はいつになるのか」を聞いてみました。部屋の清掃や修繕などをするので1月中旬ごろに鍵の受け渡しになると言われましたが、1月に入っても連絡がありませんでした。ナビのスタッフに相談し、鍵の受け渡し時期が決まらなると、一人暮らしの際に入る介護事業所の見通しが立たないので困ると大阪市役所の市営住宅募集担当(鍵受け渡しの事)に連絡して、結局、当初よりは遅くなりましたが、2月27日(金)に鍵を受け取りました。

(気持ち)

鍵の受け渡しの行き違いは、凄く私の中で苦しかった出来事でした。市営住宅に住むのも初めてだし、手続き諸々のやり方もわからない状態で、鍵がいつ来るのか分からない、いつ一人暮らしを始めるのかのプレッシャーなどとても苦しかったですが、引っ越ししてから一週間、意外とスムーズに進んだと思っしたのは、いろんな人のサポートのおかげだと思ひます。

【市営住宅内覧】



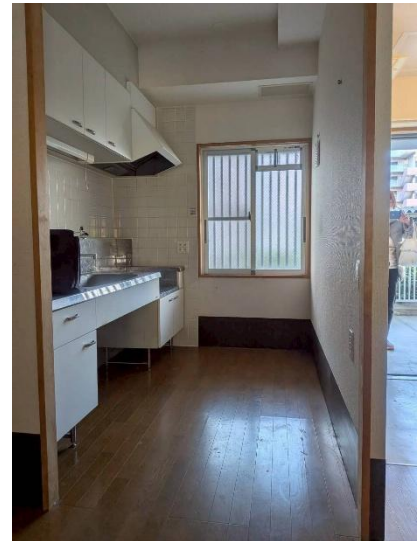
内覧には、平野住宅管理センター、福祉用具取り扱い業者、ナビ当事者スタッフが参加してくれました。



トイレの便座の位置変更やリフトが設置できるかどうかなどを確認しました。



ベッドを置く場所なども考えました。



【リフト試乗会】

(経緯)

自分自身が安心して生活できるように、そして、介護事業所に安心して介護してもらえるように、リフトを使って入浴やトイレ、ベッド移乗するためのリフト導入を検討しました。





(気持ち)

今まで入ってくれている事業所、新しく入ってくれる予定の事業所が参加してくれました。

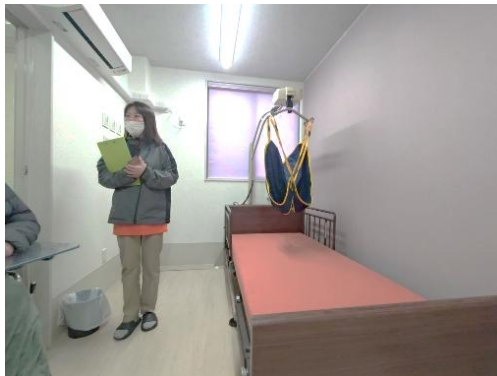
「生活介護クラン 見学」

(経緯)

介護時間数が足りないことやリフトの設置に時間がかかることが理由で生活介護クランに通うことになりました。

生まれて初めて生活介護に見学に行き、機械浴を見せられました。

週3日通所予定で機械浴メインで入浴することになりました。



おすすめのお店紹介します！

店名: CAFE 616

住所: 546-0043 大阪市東住吉区駒川3丁目27-19 神田レジデンス 102号

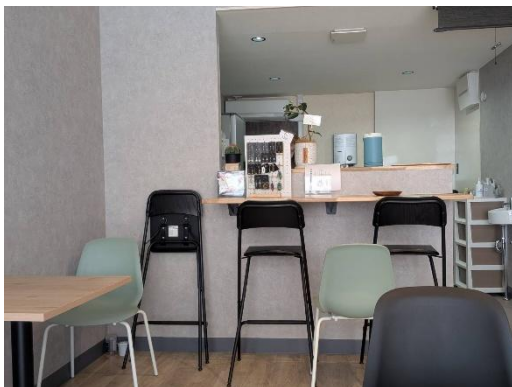
営業時間: 月曜日から日曜日 8:00~17:20

前回まで、鶴羽が行ったお店を紹介させていただきましたが、今回は、久しぶりに山下が紹介したいと思います。駒川商店街の入り口近くCAFE616という喫茶店を紹介します。

ぜひ、みなさんも行ってみてください。

お店は2025年7月にオープンしたそうです。

・入店しようとするすると店員さんが気づいてくれて「車いす押しましょうか？」と声をかけてくれて手伝ってくれました。



カウンター2席と2人掛けのテーブル3席、3人掛けのテーブル1席ありました。店内は広く、車いすの人の利用はありますか？と聞いてみると「車いすの人が3名来られる時もあり、その時は机を繋げて対応させてもらっています。」と店員さんが言っていました。

しょうがいしゃ はたら 障害者が働くということ

じりつせいかつ さんか
～自立生活センター・おおさかひがし自立セミナーに参加して～

がつ にち きん おおさかしひがしなりく きよてん かつどう
3月27日(金)大阪市東成区を拠点に活動
されている自立生活センター・おおさかひが
しの自立生活セミナーに参加しました。テー
マは「障害者が働くということ」
すごく興味深い内容でした。



こうししょうかい 【講師紹介】

かん ぼくく えぬびーおーほうじんしょうがいしゃじりつせいかつ だいひょう
姜 博久さん(NPO法人障害者自立生活センター・スクラム 代表)

ねん おおさかしいくのく う まれる。しょうちゅうがっこう ようごがっこう げん しえんがっこう こうこう にゅうがく かんさいだいがく
1960年 大阪市生野区で生まれる。小中学校は養護学校(現:支援学校)は、高校に入学。関西大学で
けんきゅうほさてき しごと だいがくそつぎょうご ぜんしょうれんかんさい し むきょくいん ほんかくてき しょうがいしゃうんどう
研究補佐的な仕事のアルバイト。大学卒業後、全障連関西ブロック事務局員として本格的に障害者運動に
たずさ ねん しょうがいしゃじりつせいかつ た あ
携わる。2003年 障害者自立生活センター・スクラムを立ち上げる。

きたおかけんじ えぬびーおーほうじんじりつせいかつ だいひょう
北岡賢治さん(NPO法人自立生活センター・おおさかひがし 代表)

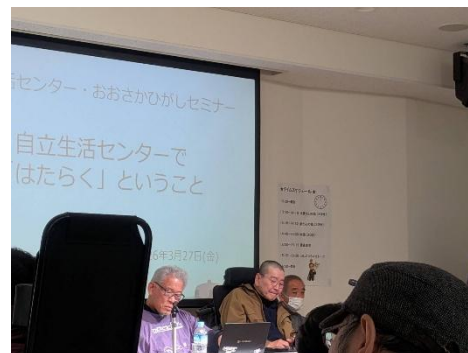
ちゅうがく こうこう だいがく しゃかいじんじだい けいけん ご しゅうしよく さまざま しごと ねん
中学、高校、大学、社会人時代はサッカーを経験。その後、就職し様々な仕事をしてきたが、2008年に
じたく たお きゅうきゅうはんそう しょ びょういん にゅういん ねん がつ じりつせいかつ うんえい
自宅で倒れて救急搬送。2か所の病院に入院し、2013年9月に自立生活センターおおさかひがしが運営
するちいきかつどうしえん ふおーえぼー つうしよ ねん がつ
する地域活動支援センター「FOREVRフォーエバーいつまでも」にメンバーとして通所。2015年4月にス
タッフとなる。

さんか かんそう 【セミナーに参加した感想】

きたおか ひがしすみよくちいきじりつしえんきょうぎかいとうじしゃがかい こうし じりつせいかつ きょうりよく
○北岡さんには東住吉区地域自立支援協議会当事者部会の講師やナビの自立生活プログラムに協力して
いただきました。おおさかひがしに就職が決まった時、すごく嬉
しかったという話を聞き、僕も就職した当時は嬉しかったので
きょうかん はなし
共感できるお話でした。

かん しょうがいしゃうんどう さべつもんだいぜんぱん かか かつどう
○姜さんは、障害者運動や差別問題全般に関わる活動をしてきた
けいじ かつ じゅうようせい とうじしゃ
経緯を語ってくれました。ピアカウンセリングの重要性や、当事者
どうし たが ささ あ いみ はなし
同士が互いに支え合うことの意味をお話いただきました。ナビの
とうじしゃ さかい まいつぎ こうざ
当事者もスクラムの酒井さんに毎月ピアカンミニ講座をしていた
だいています

かたがた かか も じぶん かつどう つづ
○いろんな方々と関わりを持たせていただいているからこそ自分たちも活動を続けることができているん
だなと改めて思いました。北岡さんがお話されていた「和」を僕も大切にしていきたいです。



ぶんせき やました
【文責:山下】

みなさん熱心に参加してくれました！

おおさかめとろ たいけんかい 〜OsakaMetroバリアフリー体験会〜

みなさんこんにちは。自立生活センター・ナビの山下です。
OsakaMetroバリアフリー体験会に参加してきたので紹介
たいと思います。体験会は2年ぶりの実施でした。
入職して1年目の新人職員から30年目のベテラン職員まで
40名ほど参加してくれました。最近では、駅構内にエレベーター
が増えてきました。OsakaMetroでは2026年3月までに
全駅に可動式ホーム柵が設置されました。(ホームと車両の
段差・隙間解消は、今後、順次整備されていく予定。)



このようにバリアフリー化が進みつつあります。しかし、災害が起こった時にエレベーターやエスカレーター
が使えなくなることがあります。予期せぬ事態に備えて日頃から研修を実施することが大切だと思いま
す。今回は、車いすユーザー、視覚障害者、支援者が講師となり体験会を行いました。
それぞれの体験様子を紹介します。

体験内容

① 車いすの操作方法



車いすの前輪あげや、後輪をあげて車いすを横にスライドさせる方法や段差を超える方法などを体験し
てもらいました。

② エスカレーター介助



車いすの前方を介助する人、後方を介助する人のタイミ
ングを合わせる事が大事で、特に前方の人は片手は車
いす、もう片方はエスカレーターの手すりを持ってほしい
ということを伝えさせていただきました。



駅員同士でも体験してもらいました。

両方の手で車いすを持ってしまうと、バランスを崩した時に車いすユーザーも介助者も一緒に転倒する危険性があります。参加者にも車いすに乗ってもらい介助される側の目線で体験してもらいました。

③ 階段介助



改めて、バリアフリーのありがたさを感じることができた体験でした。災害など予期せぬ事態が起こった時に、今日の体験会のことを思い出してほしいです。

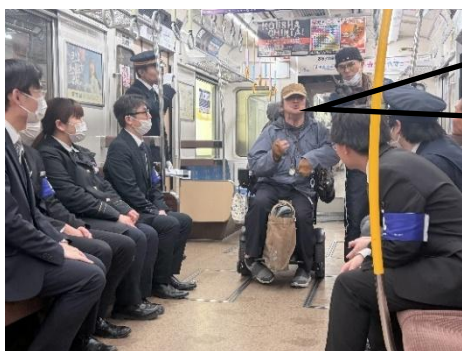


④ 視覚障害者への手引き

手引きに関しては、意外と慣れていて丁寧な方が多かった。あと何メートル先に段差があります。とか見通しを伝えてくれるのも良かったです。



⑤ 言語障害当事者とのコミュニケーション



言語障害の人に対しては、言葉がわからないのに、わかったふりをしないで、何度も聞き返してほしい、また、駅を利用するの困りごとを話せて良かったです。

●参加してくれたOsakaMetro職員の感想

・必要な配慮はひとりひとり異なるので、思い込みで行動するのではなく、まず相手の状況を把握し、安心してもらえるように対応することが大切だと思いました。

・直接、当事者の方と話をすることで日常生活や外出場面で、私たちが気づかないところに多くの不便さや不安があることを知りました。設備が整っていても、それだけで充分ではなく、周囲の声掛けや対応によって、安心感が大きく変わるという話が印象的でした。

あいえる協会へグループホームについて学びに行きました

ちゅうぶでは、各部門の有志で、自立支援がんばろう会(準備)をつくり、自立支援やILPの取り組みを強化したいと、打ち合わせや学習を始めています。

ちゅうぶには、グループホームリオがありますが、定員満員に近い状態が続いています。しかし、グループホーム頼みでない自立支援や、グループホームを増やしているところなど、他の障害者団体では、様々な実践があります。3月9日に、あいえる協会さんにお伺いし、民間マンションやUR賃貸でグループホームを作って、グループホームの部屋をどんどん増やしている実践や集団ILPを軸にした地域移行の取り組みなど多くのことを教えていただきました。以下、概要を報告します。(文責:堀)

集団ILPで地域移行への流れを作った

2009年～12年の集団ILPの黄金期に活発なILPプロジェクトを施設入所者対象に実施してこられました。ビックリしたのは、プロジェクトの当事者リーダーをオーディションで選んできたという盛り上がりです。

ILPのテーマを聞いただけでワクワクしました。みんなで集団ILPを楽しんで作って、いいですね。


- 2010年度 集団ILP 『未知との遭遇』
『ゆっくりナイター Part II Nighter』
- 2011年度 集団ILP
『みんなで行こうよ！はちやめちや大冒険』
- 2012年度 集団ILP
『♪大阪ええとこバイキングツアー♪
～ダーツできめるみんなの旅～』

地域移行希望者の受け皿として、グループホームの増室

1995年に民間住宅で「グループホームほんわか」を設置(1ホーム3名)、2003年に「グループホームあいえる」を設置。その後、GHあいえるから自立を目指すという希望や、施設からの地域移行希望者がたくさん出てきて、その受け皿として、UR賃貸住宅を次々に借りて、「ほんわか」を増やしたそうです。現在、7ホーム。(1か所2名定員で計14名)。

UR賃貸でバリアフリー工事が可能

手続きはめんどくさいらしいですが、UR賃貸でグループホームを作ったり、バリアフリーの工事をしたりという手続きが一定、整備されているようです。工事は現状復旧が条件です。




2009年までで24名の地域移行！

↓

あいえる協会の集団ILPプロジェクト

今までは、自立生活センター・まいどの企画として取り組んできたILPですが、2009年度より法人全体の企画として、各部署からスタッフを募り、当事者リーダーもオーディションで選ぶなども取り入れながら、法人全体のプロジェクトとして取り組んできました。



集団ILPから地域移行までの取り組みの流れ

6月：職員決定・打ち合わせ

7～9月：当事者リーダー決定・施設訪問交流会(プレゼン！)

9月～：集団ILP募集開始

11～12月：集団ILP本番

1～2月：参加者から個別ILP(地域移行)を募る

3月：総括・方針

ILP Logo	
2004年	まいど第8期ILP「いろいろな生活にズームイン！」
2005年	まいど第9期ILP「大声カラオケ」 ★大阪市「地域移行促進交流事業」開始 まいど「たのしまnight」(施設障害者宿泊体験)
2006年	まいど第10期ILP「出かけよ！遊ぼう！友達作る！」 ★拡大施設部会「自立支援法で入所施設はどうなる」(北村園) まいど第11期ILP「お鍋で身も心もほっかほっか」
2007年	★大阪市「施設入所者調査に向けた研修会」 ★大阪市「地域移行推進検討会」開催
2008年	まいどILP企画「ゆっくりナイター」(宿泊体験)

グループホームへの入居までの個別ILPや体験宿泊のプロセス

以前は、半年から1年かけて、個別ILPや体験宿泊を実施していたのですが、最近、2泊3日を2回程度実施するだけで、あとは、グループホームに入居して、生活を共にしながら課題を解決していきようになったそうです。

入居までのプロセスが短くなったのは、児童施設からの退所予定者が対象となることが増えて、退所期限の問題もあることも関係しているようでした。また、コロナ禍以降、施設への出入りが難しくなったという経緯からも短期化してきたそうです。

現在のほんわか

- ・ マンションの一室を借りて運営
- ・ 7つのホーム 男性ホーム 4カ所
女性ホーム 3カ所
- ・ 各ホームのお部屋は3LDKor 2LDKで定員は各2名
- ・ 現在 男性8名
女性6名 計14名の方が生活中★

2泊3日を2回だけというのは、あまりに短すぎて、それで何とかなるものなんだと衝撃でした。逆に、やってみて出てきた課題に向き合って解決できる部門間連携や組織力の強さを感じました。

障害者支援についての部門連携が日常的に確立している

自立支援や日常の障害者支援は、全部門が連携して行うことが普通になっているそうです。支援すべき障害者ごとの、各部門の担当者が一覧になっている表が壁に大きく掲載され、共有されていました。その一覧には、障害当事者のスタッフも加わっているのですが、今は、当事者スタッフの高齢化で、必ずしも、できていないそうです。あいえる協会の中井さんが、「健全者スタッフに言いたいことと、当事者スタッフに言いたいことが違うので、当事者スタッフは絶対に入ってもらった方がいいですよ」と言っておられたのが印象的でした。

部門連携のために、障害者個々にカスタマイズされた連携シートを作っているというのも、参考になりました。

グループホーム運営の人員配置の工夫

夜間毎日1~2名が宿泊し、重度利用者がいる場合には1対2、それ以外でも1対4の割合で支援ができる体制を確保しているそうです。

ヘルパー派遣部門との兼務配置なども実施されていました。

今後も、知的障害者支援やコミュニケーション支援、意思決定支援が必要な場合など、学んでいきたいと思っています。



熱心な話が続けました。平沼、小坪、畑村、長妻、齊城、佐々木、山下、堀あいえる協会の中井さん、吉田さんありがとうございました！

万博を機にユニバーサルデザインの推進に期待したい！！

第22回バリアフリー推進勉強会 in 関西

自立生活センター・ナビの山下です。第22回バリアフリー勉強会に参加してきたので報告したい。

前半 万博の取り組みに関わった方々からの報告

■「Osaka Metroの取り組みについて」前原さん(大阪市高速電気軌道株式会社 交通事業本部交通ネットワーク部 バリアフリー企画課長)

「夢洲駅」では、Osaka Metroでは初めてのカームダウン・クールダウンスペースを改札内外に設置した。混雑時に落ち着ける場所として整備したが、本来の目的以外で利用されるケースもあり、現在は駅長室内に移設している。トイレについても多機能トイレやジェンダーに配慮した設備を整備した。「弁天町駅」では、J R 西日本と連携して乗換動線を整備し、床面の色分けラインによって進行方向を分けた。「本町駅」では、改札外も乗換経路として活用し、一方通行化により移動の円滑化を図った。

■「当事者参画による”気づき”から”かたち”へ」児玉さん(大阪経済大学 非常勤講師)

設計では、博覧会協会の「ユニバーサルデザインガイドライン」に基づき、2022年6月からワークショップを開始し、基本設計、実施設計、施工段階まで継続的に意見交換を行った。ワークショップには車椅子使用者、視覚・聴覚障害者、知的障害や精神障害のある方など多様な当事者が参加。外周回廊では、誘導ブロックを設置できない構造のため、レールガイドやラインガイドの新たな誘導設備を導入し、視覚障害者向け案内システムのナビレンスも採用した。今後は、設備整備と運用体制を一体的に考えるユニバーサルデザインが重要であり、日本館での経験が今後の公共施設整備に生かされることを期待。

■「大阪ヘルスケアパビリオンのコ・デザイン-当事者参画のプロセスから生まれたモノ・コト」石塚さん(東北福祉大学 共生まちづくり学部 教授)

大阪ヘルスケアパビリオンは、万博会場で日本館に次ぐ規模の施設で、ユニバーサルデザインの監修として約4年間、当事者参画のワークショップを企画・実施した。発言しにくい人が、排除されない環境づくり、知的障害や発達障害など参加機会の少なかった人の参加、多様な参加者が対等に関わることを重視し、会議ではなくワークショップやヒアリングを中心に 24回開催。模型や実物大モックアップを用いた体験的な検討を行い、理解に時間が必要な参加者には個別説明の機会を設けるなど、情報共有にも配慮した。参加者は、車いす使用者、視覚・聴覚障害者、知的・精神・発達障害のある人、医療的ケアが必要な人や支援者など 27人で、設計者や運営スタッフ、協力企業とともに対等な立場で当事者と直接対話する機会も設けた。その結果、「みんなトイレ」の設計や同一動線による利用体験、会期中の改善活動などが実現。当事者と専門家が対等な立場で課題解決を考える参加のあり方を示したものであり、今後のユニバーサルデザイン推進にもつながる重要な経験となった。

後半 パネルディスカッション

“大阪・関西万博”について～当事者参画から得られた成果と課題と題してパネルディスカッション

パネリストは、車いすユーザー、視覚障害当事者、精神障害当事者、LGBTQ、学識など様々な立場の方が参加。筆者の視点から、パネラーの発言を成果・課題・重要性ごとにまとめてみた。勉強会に参加した感想は、今後、日本中でたくさんのスポーツイベントなど開催されるが、大阪・関西万博の良い事例を参考に、企画段階から当事者の意見を反映して、誰一人取り残されないようにしてほしいと思った。

■成果■

・会場全体に点字ブロックが整備され、ShikAIやナビレンスの新技術が加わったことで、自分の力で会場を移動し、万博を楽しむことができた。

・万博の最大の成果は当事者参画だった。ワークショップでは、約1800項目の意見が出され、駅や会場の設備整備に反映された。

・オールジェンダートイレの検討では、まだ標準的なモデルがない中で、実際に万博で整備されたことには大きな意義がある。

・カムダウン・クールダウンルームについて、当事者や保護者など多様な立場の意見を直接聞きながら検討できたことは良かった。

・当事者参画によってガイドラインを細かいところまで決めることができた。交通アクセスのガイドラインが夢洲駅で実現した点も重要な成果。

■課題■

・ShikAIは、点字ブロックのある場所に限定されていて、ルートが途中で途切れることもあった。

・「夢洲駅」では、インターホンが設置されていたが、混雑時には利用づらい状況があった。大型エレベーターでもベビーカー利用者が多く長い列ができ、ホームの混雑に不安を感じる場面もあった。

・精神障害のある人は疲れやすいため、混雑の影響も大きく、安心して過ごせる環境づくりには入場者数の調整なども必要だったと感じた。

■重要な点■

・視覚障害者の支援技術としてShikAIやナビレンスが導入されたが、採用決定が開幕直前だったと聞き、今後の国際博覧会では施工段階、できれば設計段階から導入を検討する必要があると感じた。

・オールジェンダートイレが本来の目的と異なる形で利用されているという声もあり、当事者参画で作った仕組みを維持していくことの重要性を感じた。

・構想段階から設計、施工、運用、評価までのプロセスをレガシーとして残すことが重要。当事者と専門家が学び合いながら協働する仕組みを広げていく必要がある。

・ユニバーサルデザインの分野でも、日本館や大阪ヘルスケアパビリオンをはじめとして多くの新しい設備や仕組みが導入された。これらの成果を万博の一過性の取り組みで終わらせるのではなく、どのように社会に発信していくのが重要。

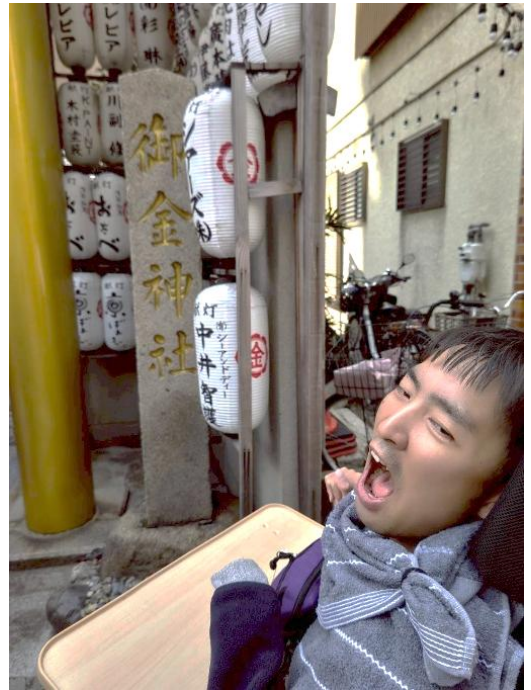
マノスタグラム

ぎょうれつ おかおじんじゃ まい ～行列のできる御金神社へお参り～



さる3月20日
京都の中京区に
ある「御金神社」
へお参りしてき
ました。

9:00に自宅
を出発し、
喜連瓜破から
地下鉄で天満
橋に向かいま
した。昼食の予
定でしたが、あ
まりお腹が空
いていなかっ
たようで、先
に京阪電車で



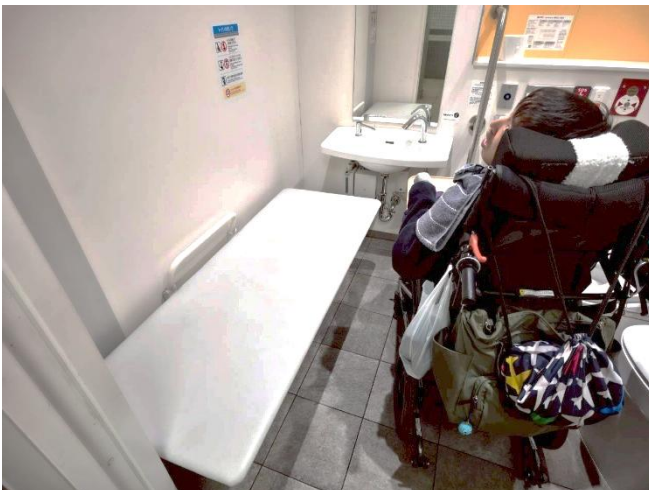
京都に向かうこ
とにしました。昼
食は四條河原町
のマクドで、てり
たまバーガーの
セットを食べま
した。バーガー
9割、ポテは食
べにくかったよ
うで半分程度、
食べられました。

昼食後、徒歩で

御金神社に向か
いました。神社に
到着すると参拝
する人が並んで
、警備員も出て
おり、こんなに
人が多いとは思
いませんでした
。本殿に参拝後
、御朱印とお守
りを購入して京
阪の三条駅まで
歩いて戻りまし
た。

電車に乗る前に
駅のトイレを使
用しました。ト
イレはベッド付
きに改修されて
おり、また京都
に外出した時
にはこのトイレ
は使えそうです
。通所の活動も
金運もアップで
、今年度もがん
ばります！！

(文責: 眞野・HH秋山)



正職員・ヘルパー スタッフ募集中！

「200万回の選択。」を実現するために

人は、1日におよそ70回の選択と決定を繰り返していると言われています。
朝起きる時間、出掛ける場所、どんな服を着て、何を食べて、何をして誰と過ごすのか。
83年という平均寿命では、一生涯でおよそ200万回。

でも、これは健常者だった場合の数字。障害者の場合はどうだろう？
わたしたちは、生活の中で様々なことに制限がかけられる障害者でも、
「200万回の選択。」を実現できる社会づくりを目指しています。

“障害があっても、人の力を借りて自己選択・自己決定すること”
わたしたちの考える大きな「自立」のかたちを確かに実現していくために。

ぜひいっしょに、働いてみませんか？お待ちしております！



(事業内容&スタッフインタビュー) (応募フォーム(正職員))



ヘルパー応募についても

お気軽にお問合せください！

★1,350 円/h~

★11,200 円/泊(23:00-翌 7:00)

※講座修了後の金額です。

〔NPO 法人ちゅうぶ〕 Tel:06-4703-3740



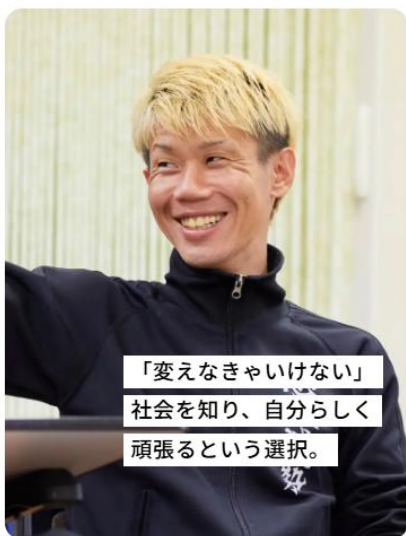
?ちゅうぶで働くなって、どんな感じ?



「200万回の選択。」を実現するちゅうぶで働く人もまた、様々な人生の選択を繰り返しています。

どんな想いをもって日々働いているのか?

ちゅうぶとの出会いや一日の流れを、各部門で活躍するスタッフにインタビュー!
左ページのQRコードからぜひご覧ください!



「変えなきゃいけない」
社会を知り、自分らしく
頑張るという選択。

重原 和樹さんの働き方

2019年入社



「やりたい」気持ちが
大事にされる環境で、尊敬できる
人たちと働き続ける選択。

西 由姫さんの働き方

2014年入社



ライフステージの
変化を法人と共に。
仕事も家族も大事にする選択。

畑村 一輝さんの働き方

2015年入社



ちゅうぶで起こる
“特別”な光景を、世の中の
“普通”に変えていくという選択。

小八重 央さんの働き方

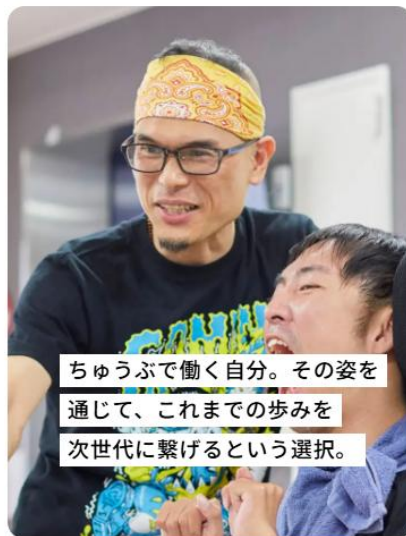
2012年入社



障害者も、自分自身も。
人との関わりを通じて、
生き方に広がりをもつ選択。

齊城 桃果さんの働き方

2021年入社



ちゅうぶで働く自分。その姿を
通じて、これまでの歩みを
次世代に繋げるという選択。

富田 譲治さんの働き方

1999年入社

障大連 大阪市ブロック

今、私たちが大切に
すべきものは何か？



大阪の運動の源流と今を知る！

今、大阪の障害福祉は揺れています。8月には就労継続B型は新規停止。就Aでは30億円以上も過大請求した問題がマスコミでも出ていますが、「不正」の根は深いようです。良い面でも悪い面でも日本一の大阪の障害福祉。大切なのは、ほんとにインクルーシブな、共に生きる社会になっているのか、障害者はやりたいことやって、自立生活できているのか…。そのために私たちは何をすべきか。障大連には大小いろんな団体が集まっていますが、今回は1970年代から地域の保育園や小学校に入る取り組みをはじめ、その後、幅広く事業展開されている(社福)ノーマライゼーション協会、(社福)路交館の話を聞きます。名前は知ってるけど、団体のことはよく分からない…という人も多いと思います。後半は交流会でざっくばらんに話をします。次回7月17日(金)には団体アンケートをもとに意見交換と「専門家」も招いて学習会を予定しています。

●タイムスケジュール (講師)

13:30~14:30 ノーマライゼーション協会 理事長 あらいつとゆ 新井勉さん

14:30~15:30 路交館 理事長 あさこけんじ 尾塔健二さん

15:45~16:30 交流会



社会福祉法人路交館

『障がい』児共同保育54年

障がい児・者や異なる文化を持つ人々、夜間の保育を必要とする人々、被虐待児など、もっとも困難な立場に立されている子どもや大人に眼差しを向け、これらの人々に寄り添う…



地域で共に生きる

社会福祉法人ノーマライゼーション協会

すべての人権を基軸とした
ノーマライゼーション社会の実現
「すべての人が、それぞれに、人間として豊かに！」
の熱い思いを大切に、当事者支援を進めます。

●日時：5月15日(金) 13:30~16:30 参加費無料

●大阪府福祉情報コミュニケーションセンター(コミセン) 4階(会議室1A) Zoom 併用

●申込み: Zoomの方は左下のQRコードから、又は「ID・パスコード」を入力し(※)ご参加下さい。



(※) ズームトップページ
から「参加」を選択
→「ID」入力
→「参加」を選択
→「パスコード」入力

◆ミーティングID 837 5894 1079
◆パスコード 033267

当日参加もOKですが、設営等の準備の関係で、事前に参加連絡もらえると助かります。→5月8日(金)ま

主催：障害者の自立と完全参加をめざす大阪連絡会議
(障大連)

TEL：06-6748-0646

FAX：06-6748-0673

syodairen@mbr.nifty.com (企画担当：石田)

きょうりよくかいひ

きょうりよくしゃめいぼ

協力会費・カンパ協力者名簿

かみたに 神谷 利彦 さん	あまがさきし (尼崎市)	いしはし 石橋 久美子 さん	はびきのし (羽曳野市)
ふじた 藤田 さゆみ さん	ねやがわし (寝屋川市)	きど 木戸 泰弘 さん	みえけん (三重県)
やました 山下 幸子 さん	しんじゅく (新宿区)		

がつ にちげんざい
4月2日現在

ご協力ありがとうございました(担当:安東)

「**ダブルピーシー** 負けたのに今月号は**WBC**祭り」



↑このオニくん写真は実際に準々決勝で負けた当日の3月15日(日)に撮影しています



今回のOTTフリックス独占放送には賛否がある
みたいだね。ワタシはもちろん、ピツの方だよ。



サムライおに:

「梅しい〜!!、一刀両断するつもりが、逆にされちゃったよ〜!、あれだけのメンバーが揃っても、鬼に金棒というわけにはいかなかったよ」

赤おにくん:

「勝負の世界は厳しいものさ、お茶たてたから、飲んで落ちついて、次に向かっていこうよ」

2026年4月～5月 スケジュール

4月18日	土	シーアイエル CIL おおさかひがし企画「障がい者がはたらくということ2 (榎本美樹さん)」13時半～@東成区社協
4月19日	日	パロマ瑞穂スタジアムこけらおとし試合(車いす席300席をみんなで埋め尽くせ!)16時～
5月9日	土	しょうだいれんねんじしじょうかい 障大連年次総会13時半～16時半 @おおさかふじょうほう 大阪府情報コミュニケーションセンター4階(学習会はありません)
5月15日	金	しょうだいれんねんじしじょうかい 障大連大阪府ブロック13時半～16時半「ノーマライゼーション協会 & 路交館 & 交流会」@コミセン
5月23日	土	24日(日)30日(土) NPOちゅうぶ 重度訪問介護従業者養成講座(日程調整中、HP参照)

●4月1日雨の夜。いつもなら信号無視して通る自転車が赤で止まっている。あ～青切符制度が始まったからか、と納得。たぶんママチャリが全国一多い大阪(知らんけど)自転車道の整備はほとんど進んでないし、ルールは多いしどうなることか。自分ではサイクリング車で車道を走るが、大きな道を右側通行するのだけはやめてほしい。大阪では就労継続事業が大きな話題になっている。就労Bの在宅就労の蔓延(中にはまともなものもあるが…)、就労Aでは絆ホールディングが4事業所で約150億円の過大請求(不正請求)を行い、返還命令が出され、指定取消となった。障害者が法人内の事業所で就労したように書類上操作を繰り返していた。大阪は就労系、放課後デイ、グループホームなどもこの数年で急増しているが、障害者が儲けの対象となっている実態も広がっている。8月からは就労Bの新規指定も停止となった。びっくりするのは金額。2003年の支援費制度では措置から利用契約制度となり、民間事業者が参入できる仕組みになり、ヘルパー制度が全国で急増。厚労省は大赤字で大混乱となった。でもこの時の赤字額は国で100～200億円。今回の不正がいかに大きかが分かる。問題は障害者の生活が改善されたかだ。さて、どうなる?どうする?

(いしだ)

●「ぜひ推しについて語ってください」と隣席より頂戴した編集後記リクエスト。この狭いスペースで書ききれぬだろうか?挑戦!韓国のあるアイドルグループを推し始めてはや5年。Love Myselfに救われたあときの感覚は一生モノ。未来の安心より現在のハピネスを優先。うなぎ登りな彼らへの依存度を自戒しつつ生きる日々。たまに聞かれる「キライになるとしたら、どんな時ですか?」への答えはいつも「彼らの創る音楽が自分にとってしょうもなくなったとき」。ビジュアルも各々のキャラクターも全て好きだけど、一番彼らが表したいものはやはり音楽で、そこに込められたメッセージを自分が受け取れなくなったらそこが潮時なのだろう、と常々思っている。先日、久しぶりにフルアルバムをリリース。従来と毛色の異なる作品に戸惑いの声も聞かれるけれど、個人的にはかなり好き。「変わることは、怖いけれど大丈夫」と私に教えてくれた彼らが、ドキュメンタリーで「変わる自分たちが受け入れられるかとても不安」と述懐していた。「大丈夫だよ」と伝えるために、今月、全員揃った彼らに初めて逢いに行く。(よしだ)

●こんにちは、ナビの東です!今回の編集後記を書くにあたり、これまでどんなことを書いていたのかなあと気になり、過去の通信をさかのぼってみました。すると今回で7回目になるようです。2015年4月に入社して、今年で12年目…本当にあっという間ですね。これまでの編集後記を振り返ると、2016年は体験宿泊を通して親のありがたみ、2017年は趣味を見つめたいと書いており、その趣味が今の音楽活動につながっています。2019年は推しの高橋優について熱く語り、2020年はコロナと障害者について、2022年は引越しの報告、2024年は新敵についてアピールに協力してくれたメンバーさんや新たに会ってくれた学生さんへ感謝の気持ちを述べていました。こうして振り返ると、12年間いろいろな出来事があったなあと感じます。これから先どうなるかは分かりませんが、ひとつひとつの時間を大切にしながら、後悔のないように過ごしていきたいと思えます。(あずま)

【東住吉区障がい者基幹相談支援センター】
【自立生活センター・ナビ】
 〒546-0042 東住吉区 西今川 2-3-8
 でんわ = 06 (6760) 2671
 ファックス = 06 (6760) 2672



【障害者活動センター 赤おに】
 〒546-0031 東住吉区 田辺 5-6-10
 でんわ = 06 (6623) 7300
 ファックス = 06 (6657) 5010

【グループホーム・リオ】
 〒546-0032 東住吉区 東田辺
 2-21-21
 でんわ&ファックス
 = 06 (6608) 5244

【ヘルプセンター・すてっぷ】
 NPO法人ちゅうぶ 2階
 でんわ = 06 (4703) 3741
 ファックス = 06 (6628) 0271

【障害者活動センター 青おに】
 NPO法人ちゅうぶ 1階
 でんわ = 06 (4703) 3742
 ファックス = 06 (4703) 3743

編集: 特定非営利活動法人
【NPO法人 ちゅうぶ】



〒546-0031
 おおさかしひがしみなとくたなべ
 大阪市東住吉区田辺5-5-20
 でんわ=06 (4703) 3740
 FAX=06 (6628) 0271

ホームページ=https://npochubu.com/
 メールアドレス=chubu@npochubu.com
 郵便振込口座: 00960-6-313427
 通信 定期購読料 = 1年間2,000円